



図書館だより 4月号

〒519-0505 伊勢市小俣町本町2番地 (電話) 0596-29-3900 (FAX) 0596-29-3902

小俣図書館 図書館行事 ご案内!

おはなし会 1階・おはなしのへや



★「赤ちゃんおはなし会」 1階・おはなしのへや

4月14日(土) たんぽぽおはなし会、午後3時～

4月15日(日) ピッポの会・紙芝居、午前11時～

4月12日(木) 午前11時～



◆上映会 2階・視聴覚室

①4月7日(土) 午後2時～

「こびと観察入門」《32分》

②4月21日(土) 午後2時～

「ロビン・フッドの戦い」吹替え《94分》



※おはなし会、上映会の事前申込みは不要です。

★図書館おはなし会&工作

〈1階・おはなしのへや〉



(日時) 4月28日(土) 午後3時～

(対象) 3歳～小学生(就学前の子どもは保護者同伴)

(内容) おはなしを読んだ後、こどもの日にちなんだ工作をします。

『足立徹水彩画「小俣町十二景」展』

(日時) 4月14日(土)～5月10日(木)

(場所) 2階・ギャラリー

みんなで絵本を作ろう! 企画第4弾

『いちごちゃんとおたじょうび』発表おはなし会

(日時) 4月28日(土) 午後2時30分～

(場所) 1階・おはなしのへや

(内容) 昨年公募した「みんなで絵本を作ろう!」完成記念おはなし会。

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週火曜日、第2金曜日

年末年始、特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内(うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊1ヶ月以内(うち雑誌は25冊まで)

小俣図書館カレンダー

4月

5月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

日食グラスを作って 金環日食を見よう!

(日時) 4月21日(土) ①午前10時30分～11時30分

②午後1時～2時

③午後2時30分～4時

(場所) 2階・ホール

(対象) ①・②小学生とその保護者、③中学生以上

(内容) 5月21日にある金環日食を見るための日食グラス(めがね)の作成と、金環日食についてのお話を、三重県環境学習情報センター環境学習推進員の水谷雅寛さんにさせていただきます。

(定員) ①・②各30組、③30名(全て先着順)

(申込み) 4月1日(日) 午前9時～

小俣図書館カウンターへ(電話可)

☆読書ラリー☆ 参加者募集

(日時) 平成24年4月23日(月)～平成25年3月31日(日)

(内容) 読んだ本のタイトルと感想を、読書ラリー用紙に書きためていく、楽しみながらできる読書記録です。※年間を通してたくさん本を読んだ人にはプレゼントがあります。

(申込み) 4月23日(月)～

直接、小俣図書館カウンターへ

図書館だより 4月号

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社 図書館流通センター (住所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町13-35 (電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) http://iselib.city.ise.mie.jp/

「おはなし会」

《日時》毎週土曜日 午後2時30分～

《場所》1階・おはなしコーナー

4月7日/おにいさん、おねえさんによるおはなし会

4月14日・21日・28日

/おはなしブーさんによるおはなし会

えほんのよみきかせ、かみしばいなどをやっています☆

新年度!春到来ですね* 天気の良い日にお花見しつつ、青空の下のんびり読書するのもいいかもですね~

* おはなし会、あかちゃんえほんのしかん、上映会は、申込不要ですので、どうぞお気軽にご参加くださいね!



「あかちゃんえほんのしかん」

《日時》4月26日(木) 午前11時～

《場所》2階・視聴覚室

《内容》あかちゃんむけの絵本の紹介や、手あそびなどをします♪

あかちゃんえほんのしかんは、毎月第4木曜日です★

「上映会」

《日時》4月8日(日) 午後1時30分～

《場所》2階・視聴覚室

『千の風になって』

(上映時間 107分)

映画会は、毎月第2日曜日に開催しております。



4/23(月)は子ども読書の日! 4/23(月)～5/12(土)はこどもの読書週間

夜の図書館★ぬいぐるみのおとまり会★

《内容》お気に入りのぬいぐるみに「おとまり会」をさせてみませんか?

夜の図書館で仲間たちと過ごす、初めてのおとまり。

きっと・・・何かがおこる予感!

翌日おむかえの際に、スタッフが撮ったスクープ写真をお渡しします。

《日時》4月29日(日・祝) 午後3時～4時

ぬいぐるみといっしょに絵本の読み語りを聞いた後、ぬいぐるみとお別れ。《申込》4月1日(日)から、

4月30日(月・祝) 午前10時30分～11時30分

ぬいぐるみのおむかえ。前日撮った写真で、思い出のアルバムを作ります。



《場所》2階・視聴覚室

《対象》どなたでも

(未就学児は保護者同伴)

《定員》10名(先着順)

《申込》4月1日(日)から、

直接カウンター・電話・

FAXで伊勢図書館へ

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週水曜・第2金曜・年末年始・特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内(うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊1ヶ月以内(うち雑誌は25冊まで)

** 伊勢図書館・休館日カレンダー **

4月

5月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

「絵本と子育て講座」

《日時》5月～平成25年2月までの第2月曜

(6月・10月・平成25年1月・2月は第3月曜)

(全10回) 午前10時～

《場所》2階・視聴覚室

《対象》全日程に参加できる方

(※読み聞かせの実演もあり、お子様と一緒に参加できます)

《内容》子どもと一緒に絵本を楽しむための、絵本の選び方・与え方などの講座。

《講師》堀川美子さん(紙芝居文化の会運営委員)

《定員》30組(先着順)

《申込》4月21日(土)から、直接カウンター・

電話・FAXで伊勢図書館へ





本のごあんない

〔一般書〕 「三重県民の日」

1876年4月18日、度会県が三重県に併合されて、現在の三重県が誕生し、置県100年目の1976年に制定された記念日です。

三重県や三重県民に関する本を集めました。

- ◎ 三重県の歴史散歩 (三重県高等学校日本史研究会／編 山川出版社)
- ◎ 伊勢志摩春秋 ふるさと再発見 (川口祐二／著 ドメス出版)
- ◎ 高校生レストランの奇跡 (岸川政之／著 伊勢新聞社)
- ◎ 大人の遠足 山善会が行く 三重と県境の山・県外の名山 22山行記 (山善会／著 月兎舎)
- ◎ ボーダー (大門剛明／著 中央公論新社)



〔児童書〕

はる 春だ！！タマゴだ！！イースター！！

世界には、イースター(復活祭)というお祭りがあひます。イースターが近づくと、家々ではたまごのカラに色をぬった絵をかいたりして、イースターエッグを作ります。このイースターエッグにちなみ、いろいろなたまごが出てくるおはなしを集めました。

- ★ うちゅうたまご (荒井良二／作・絵 イースト・プレス)
- ★ きんのたまごのほん (マーガレット・ワイズ・フラウン／さく レナード・ワイズガード／え わたなべしげお／やく 童話館出版)
- ★ いろいろたまご図鑑 (ポプラ社)
- ★ お月さまのたまご (こもりかおり／作 広瀬弦／絵 学研)
- ★ ときどき卵そうどう (K・ケナー／作 岡本浜江／訳 M・チェンプリス／絵 文研出版)



〔ヤングアダルト〕 「絆」ってなんだろう

家族との絆、動物と人との絆、絆の形は人それぞれ。

図書館で飼われることになった捨て猫と図書館にやってくる人との感動の実話を始め、家族写真と、その記事から見えてくる家族の形を紹介した本など、いろいろな“絆”に関する本を紹介します。

【一般書】

- 家族新聞 (浅田政志／写真 共同通信社／文 幻冬舎)
- 百年文庫2 絆 (海音寺潮五郎、コナン・ドイル、山本周五郎／著 延原謙／訳 ポプラ社)
- ポニーテール (重松清／著 新潮社)

【児童書】

- いとしの犬ハチ (いもとようこ／作・絵 講談社)
- 図書館ねこデューイ ジュニア版 町をしあわせにした、はたらくねこの物語 (ヴィッキー・マイロン／作 岡田好恵／訳 霜田あゆ美／絵 アスキー・メディアワークス)



★ 伊勢・小俣図書館のどちらかに所蔵がある本です。ご利用館にない場合は、予約ができます。

Nothing compares to the changing beauty of nature
折節の移り変わるこそ ものごとにあはれなれ

～徒然草～

山紫水明の国 日本… 太古の昔から私たちは、四季の移ろいを美しいと思う感性を身につけてきた。

柳緑花紅 — 桜の歌聖 西行 —

春、桜花爛漫。日本人は桜を心底愛する。華麗で満開な桜に酔いしれ、また散りゆく姿に哀惜の情を感じる。花と月を愛し旅に命をあずけた歌人が、己の魂を三十一文字の美学に託した。西行法師、法名は円位、名は西行。俗名は佐藤義清。西行が生まれたのは元永元年(1118)、武士の成長が目覚ましい時代である。奇しくも同じ年に平清盛が生まれており、二人は武と聖、政治と文化において後世に大きな影響をあたえた。鳥羽上皇に北面の武士として仕えた西行は、二十三歳の若さで遁世という道を選ぶ。そして仏道修行のもと諸国を旅し、和歌に自分の魂の遍歴を重ねていった。

ふるさとの風 ～卯月～

諸国を行脚し続けた西行が、晩年高野山から平穏な伊勢の地に移り住むようになったのは、源平の戦禍の世を嘆いての事である。

治承四年(1180)、平清盛福原遷都を伊勢で耳にして次の歌を詠んでいる。

「福原へ都還りと聞きし頃、伊勢にて月の歌詠み侍りに

～雲の上や 古き都になりけり すむらむ月の影は変らで～

—西行上人集 四三五—

西行の草庵は神宮のほとりのあちこちに結ばれた。歌枕の地二見浦の安養山に結ばれた草庵は、海上はるかに伊勢湾の島々を望む風光絶佳の場所であった。無造作で簡素な暮らしぶりは伊勢の数奇者達の共感を呼び、彼は次の句を行住坐臥の口ずさみとしていたという。

～一生涯ばくならず 来世近きにあり～

後に芭蕉がこの草庵を訪れた時、西行を偲んで詠んだ歌がある。

～硯かと 拾ふやくばき 石の露～

西行の死から五百年、外宮遷宮を拝んだ時の事である。

伊勢での七年間の庵居は、神官たちとの交流もあり、和歌の心を彼らに教え連歌にも興じた。また自らも神宮を詠み、後に歌集「御裳濯河歌合」を内宮に、「宮河歌合」を外宮に奉納しており、神域の美しさを詠んだ歌が数多くみられる。

～岩戸あけし 天つみことの そのかみに 桜を誰か 植えはじめけむ～

—御裳濯河歌合 一番左—

～神路山 月さやかなる ちかひありて 天の下をば 照らすなりけり～

—御裳濯河歌合 二番左—

西行にとって伊勢神宮の存在は確たるものとなっていった。

文治二年(1186)、西行は東大寺再興の歓進のため、伊勢の地をあとにし奥州平泉へ旅立つ。その後、京都嵯峨に草庵を結び、建久元年(1190)二月二十六日河内国の弘川寺の草庵において入滅した。自然美へのあくなき探求心、現実への深い洞察力を持ち続けた七十三年の生涯であった。

願わくは 花の下にて 春死なん その如月の 望月の頃

—山家集 七七—

自身がかつて詠んだ歌のとおり最愛の桜の盛り、満月の元、釈迦入涅槃の日の事である。僧形であった西行が、神前に近づけなかった故に神宮を伏し拝み詠んだ歌がある。

何事のおはしますをば 知らねども かたじけなきに 涙こぼるる

神宿る聖地が人間の魂によびかける言霊は、時空を超えていつの時代も同じである。

➤ 三重の西行法師遺跡考 伊勢の風土と文学5 (中川埤梵／著 L911/ナ)